

教会会報

川畔の尖塔

日本キリスト教団札幌教会

「言は神と共に」



牧師

米倉 美佐男

「初めに言があった。」

ヨハネによる福音書一章一節

「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。」(ルカ二・一一)

主イエス・キリストのご降誕を心からお祝い致します。「その光は、まことの光で、世に来てすべての人を照らすのである。」(ヨハネ一・九)。クリスマスの喜びはここに証されています。まことの光であられる、主イエス・キリストを伝えるために私たちは教会に招かれ集っています。

今の世界は私たちの国だけではなく世界

中が希望を持てず、混沌、暗闇のような感じを持っています。不安にびくびくしているようです。世界は大きく変わろうとしています。ただ困ったことに人のことより自分が大事だと言うような風潮が強くなりました。自分さえよければいいという考えに支配されないようにしなければなりません。

「初めに言があった。言は神と共にあった」(ヨハネ一・一)。この「言」(ロゴス)とはイエス・キリストです。言葉をもって「光あれ」と世界を創造された方が真の言、イエス・キリストを私たちにお与え下さいました。真の喜びがそこにあるのです。私たちの信仰は「イエス・キリスト」です。イエスが真のメシア、キリストです。唯一の救い主です。他に救い主はおられません。それが私たちの信仰告白です。

「キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。」(フィリピ二・六・七)。キリスト教会最古の讃美歌、信仰告白です。主イエス・キリストは誕生から十字架の死、そして三日目に復活され天に昇られ、そのご生涯すべてが

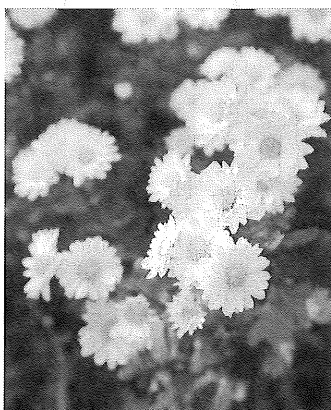
真の神であり真の人であられたのです。言とはイエス・キリストです。主イエスは始めから父なる神と共におられ、神であり人であつたと福音書の著者は証したのです。

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネ三・一六・一七)。

神の御子が人となられたのは信じる者が永遠の命を得るためでありました。それがクリスマスです。真の神が真の人になられた、信仰の一番大事な事がクリスマスのお光です。喜びと感謝をもって光の子として主と共に歩み続けましょう。

「わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ。」

(ヨハネ八・一二)。





クリスマスに 寄せて



伊藤 恵實

クリスマスの思い出

七十年ほど遡りますが、終戦後初めての札幌教会（白戸牧師）の教会学校クリスマス祝会の日の事が、忘れられません。

当時、家族は山鼻に住んでおり、南十四条西六丁目から、鴨々川沿いの道を創成川沿いの北一条東一丁目まで、子供の足では一時間余りかかる道を歩いて通いました。冬は、戦後復員した父が赤いペンキで塗ってくれた「べっぴん」の赤い櫓に妹達を乗せて、弟が綱を引き私が後押しをして行きました。その日、祝会が終わって帰宅すると、母がクリスマスのご馳走を作って待っていてくれました。戦中戦後の耐乏生活で食糧難の時代でしたから、母の作ってくれたグリーンピースがのつていたハヤシライスの美味しかったことが、忘れられません。父が無事に復員したことが、神さまから

の最大の賜り物でした。



昭和23年頃 礼拝堂にて（青年会クリスマス）

昭和二十八年、現在の円山南斜面に一軒だけポツンとわが家が建ちました。啓明のバス終点で降りると、「峠のわが家」の灯が見えて、それを目指して家路を上りました。新しい家では、クリスマスツリーを飾

ることができました。母が作ってくれた祝いの食卓を八人家族で囲み、デコレーションケーキをカットし、讃美歌を歌って楽しいホームクリスマスでした。プレゼントはツリーの下に置かれたり、時には私たちが寝静まった頃、父母サンタが二段ベッドの夫々の枕元に置いてくれました。寝たふりをして待つていて、希望の品を確かめると嬉しくて眠れなかったこと等、たくさん思い出を重ねました。両親に心豊かに育てられ巣立った子供達。その後、昭和六十一年に新築した家は、子供達の実家。心のふるさととなりました。

年を経て、平成十六年十二月、母が入居していた介護施設たんぼの丘へ、教会のキャロリングが訪問してくれました。母は讃美歌を聴いて、どんなにか懐かしく嬉しかったことでしょう。ホールに集った人々も喜んで一緒に口ずさみ、「また来年もきて下さい」との声も出て、嬉しいひとときでした。母の入居中、毎年訪問してくださったことを、心から感謝いたします。

キリシタン
聖歌隊歌声流れる夜の

雪しらじらと街は凍てつく



クリスマスによせて

宮下 泉

静岡県の中遠地方は十一月に入っても暖かく、日曜学校ではクリスマスの練習が始まります。

聴けや きけや あれに

響く鐘の 音を!!

今日ぞ 待ちし クリスマスの日

聴けや きけや あれに

響くかねの 音を。

クリスマス礼拝と祝会は夜ですので、両親と四人姉妹は四キロ程離れている中遠教会へ歩いて出かけます。教会は大きな旧家で、天辺に輝く星をつけた樅の木が奥に立てられて、人形や鐘・短冊が鈴なりです。どれにも雪を表す白い綿が載っています。

北海道に来て、常緑樹に本ものの雪が積もっているその美しさに感動しました。

イエス様の降誕劇を子供達は大好きで、「今年こそ、私が!..。」と役者不足で困る事はなかったようです。子供達の一生けんめいな劇は、参会者ひとりひとりに新しい希望をもたらしてくれる「泉」でした。

四人姉妹での「きよしこの夜」の合唱の終わりの方は、参会者全員の歌声となって喜びはいやが上にも増しました。

日曜学校に休まず出席すると、皆勤賞や努力賞と一緒に赤い服に帽子のサンタさんが、大きな袋からプレゼントを下さいます。学校で習字に使う半紙や「賞」の文字のバッジで、帽子や服につけて喜び合いました。

むかし むかしの事ですが、とても 懐かしいです。

ハレルヤ!!



クリスマスに寄せて

飛鳥 陽一

五十歳台半ばで受洗したもののクリスマスの時期は仕事の多忙さ故に教会行事参加が充分でなかったが、第二の職場以来教会のクリスマスを体験し得るようになった。

銀座教会のクリスマス行事はアドヴェント第一主日の夕べ、「メサイア」による音楽礼拝に始まる。独唱はプロ、合唱は銀座教会聖歌隊、合奏は銀座教会アンサンブル。

ル、指揮は銀座教会音楽主任である。教会員以外の多くの出席を得、会堂内は補助椅子の設置もある盛況である。受難週の「マタイ受難曲」による音楽礼拝とともに、二大行事である。

因みに、この時期、都内では「メサイア」の上演が幾つか見られる。芸大、青学、立教等々。亡妻のお伴でいずれかに出掛けるのが例年のことであつた。

イブの燭火礼拝は、ペンライトを使用、二回に別けて行われる。第一回は午後二時三十分、東洋英和女学院高・中等部の生徒によるハンドベル演奏。第二回は午後六時開始、場所柄か教会員以外の人々が極めて多く、とりわけ、若い人達の姿が目立つ。ふだんの主日礼拝もかくあればと願う次第である。

伝道の困難さが指摘されるところであるが、クリスマスはキリストを知らない人々にとつても、キリストの誕生をとくに祝うことにより、主の恵みを知るまたとない機会であろう。私達も、又、主の恵みを一層深く覚える時である。平和をとの願ひも空しく、二十一世紀も今なお、混沌の状況の中でこのように思うのである。

「永眠者記念礼拝の形式の変更」について

礼典委員会

形式の変更についての基本方針は二〇一五年度の総務委員会から、本年五月に提示されました。

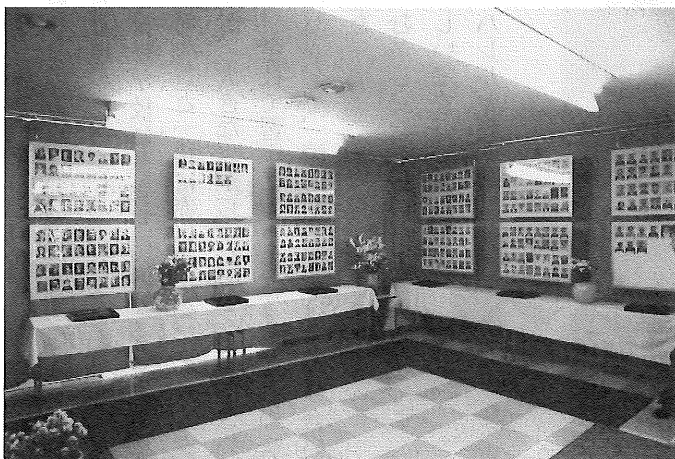
記念礼拝は礼拝堂で献げ、写真の掲示は明星館一階ロビーとし、写真パネルをピックアップチャールールに掛けるという案でした。

二〇〇七年に、写真の大きさを小さくする等の三案の中から、同じ大きさの写真でというA案が採用され、すべての写真はずし、台紙も新しくし、一額の写真を十二枚から十六枚にしました。しかし、これも二〇一五年で写真額も、飾る台にも余裕がなくなり、台の組立でも困難になって参りました。今回、パネルのサイズを多少拡大すると、一パネルに従来の二額分がそのまま入り、一パネルに三十二枚の写真が入りました。幼児、小中学生、高校生をはじめご家族の信仰で葬儀をお受けした方々、諸先生、多くの信仰の先達の写真です。

明星館ロビーにカーテンレールを設置すること、献花はロビーで自由にして頂くこ

と、明星館を土足可とすることなどが話し合われました。

パネルの選定や並べ方、カーテンの縫製の手配、ライトの具合、マットの設置、リハーサルなど、当日、後日の片付け、様々な場面でご協力くださった皆さま、ありがとうございました。今年も多くの方々と共に永眠者記念礼拝を献げられましたことを主に感謝いたします。



墓誌について

墓地管理委員会

昨年合葬墓が完成し、ようやく「教会の墓地」としての形が整えられた。あとは、諸々の台帳の記録を整えていく必要がある。まずは埋葬された方々の記名、墓碑をどのようなものにしたらよいか、その場所などを墓地管理委員会で話し合った。

①墓石に直接彫り込む。(場所・経費・体裁の面で無理)

②外の十字架(新保家)の場所に墓碑を建てる。(検討の結果無理)

③プラスチック・プレート板に名前を刻む。

③について検討した結果、プラスチック板は経年劣化があるということで、ステンレス仕様となった。プレート板に、氏名・没年月日・没年齢を刻んで、面積と将来を考慮して納骨堂内階段の壁に設置することにした。



教会バザーを終えて

宣教委員 林 信子

十月九日当日は晴れて、多くの方がバザーに参加して下さいました。この日のために準備して下さった多くの方々に感謝申し上げます。

前日から煮込んで美味しさが増したカレーやおでん。手作りのかきあげがのっとうどんやそば。泊りがけで作って下さったちらし寿しなどお食事を楽しんでいただけましたか？

ケーキ・お菓子の作り手は若い方にバトタッチしてきていますが、美味しい味を受け継いでいきたいと思います。又、手芸品はアイデアの光る小物が並び、見て、触れて楽しめたのではないでしょうか。中古衣料や友愛品ではお気に入りは見つかりましたか？ 協賛品はいつもながら人気で完売いたしました。

今回初めて、マットを敷いて土足入館としました。費用など合わせて今後の課題です。又、作り手も売り手も少なくなってきました。バザーのあり方を考え直す時期かと思っています。

教会音楽会によせて



江口ちひろ

十月三十日の午後、札幌教会の礼拝堂は教会音楽に包まれました。宗教改革記念の秋季特別伝道として行われた音楽会は、お祈りの後、マルティン・ルター作の讃美歌から始まり、キリスト教の歴史の一ページを音楽を通して感じる事ができました。

私自身、パイプオルガンの音色や聖歌隊の歌声を聴くことで、心が癒され、教会生活のエネルギーとなっており、教会音楽会を楽しみにしていました。一曲一曲が終わる度に、拍手を送りたい気持ちを心の中に収めておりましたが、近くに座っていたお客様が、演奏が終わる度に小声で、感想や「この曲聴いたことがあるわ。」と嬉しそうに話されていて、教会員の皆様の演奏が、集まった方々の心を豊かにしている様子が伝わってきます。「ユー・レイズ・ミー・アップ」の独唱では、福地姉の琴線にふれるような歌声に、一瞬自分がどこにいるのかわからなくなったことを覚えています。

演奏された皆様は、それぞれの思いを胸に曲を選ばれ、練習を重ねられたことと思います。皆様への讃美がパイプオルガンやピアノの音色となり、歌声となって礼拝堂に響き渡り、心に届く時間を共有できたことに、感謝いたします。皆様と歌った「きよしこのよる」は今も耳に残っています。



教会音楽会を準備された皆様と、演奏者の皆様の素晴らしい演奏に、改めて心から拍手をお送りいたします。

幼児祝福式

十月十六日に祝福を受けた子どもさん

辻 豊くん・彩乃さん

父母 辻 至・のぞみさん

茂貴 鉄平くん

父母 茂貴 隆人・和子さん

コナテ・エリサ・アイシェトウさん

父母 コナテ・ハミドウさん

高 アンナさん

柴野 永愛さん

父 柴野 智己さん



神様のお守りのもと、明るくお健やかに成長されますように。

札幌教会に

転入して

中平 成也



敏子

七月より札幌教会員として、皆様と共に礼拝に授かれる恵みに、感謝申し上げます。

再び転入できた喜び、礼拝に授かり暖かく迎えて下さった懐かしい方々、帰り路は足取りも軽く、家に着き祈り感謝でした。

しかし、体調が悪く、礼拝を守る以外、奉仕もできず、申し訳なく思う日々です。

主人は、私の体調を気遣って、老人ホームに入所しています。自分史や小説を書き音楽を聞いておりますが、老人性の難聴と緑内障が進み、不自由も感じつつあります。

このような老後は幸せと言って、祈ることしかできませんが、感謝の日々と話しています。

一日おきに私が訪ね、昔話の繰り返しですが、今が一番神様の愛を感じ、恵まれていることを確信し、札幌教会に受け入れて頂いたことに感謝申し上げます。

札幌教会に

転会して

堀田 茂



昨年の八月、旅行で札幌を訪れた際、偶然通りかかった札幌教会の説教の題を見て、礼拝に出席しようと思ひ、初めて札幌教会の門をくぐりました。

当時は求道すら考えてはいませんでした。だが、とても良い雰囲気だった事もあり、水曜日の聖書の学びにも出席し、そこで、初めて祈った事がきっかけで、その後、求道を開始しました。紆余曲折はあったものの、十二月二十日に仙台愛泉教会にて受洗する事が出来ました。

以前から希望していた札幌移住が現実となり、それを機会に受洗の出発点である札幌教会にお世話になる事にしました。これから多くの出会い、また、信仰を深める学びが出来ればと思っています。

クリスマスチャン一年生なので、多くの先輩方にご指導頂き、信徒として成長したいと思ひます。教会生活も札幌生活も慣れないことが沢山ありますが、今後とも宜しくお願ひ致します。

追悼

高橋 寛 兄



2016年 8 月 31 日

中川 洋子

高橋寛さんの記憶は昔、教会の集会で戦時のシベリア抑留、逃避行、生還して信仰に入られたお話（「川畔の尖塔40号」に掲載）をお聴きした時に始まります。

終の棲家と決められた南郷通り六丁目北の「イリス」に移られてから、奥様スミ子さんをお訪ねし、寛さんとお話するようになりました。数回の手術後介護棟に居られる奥様と毎日午前中を過ごしてリハビリを援け、気候が良ければよく一緒にサイクリングロードなど花を見ながら歩かれたようです。寛さんご自身毎日一万歩が目標と、昨年十一月に見つかった甲状腺癌の入院治療中も、一時快方に向かいながら五月再入院されてからも、時間があれば院内を歩くという積極的で意志の強い方でした。奥様より先に死ねないと言われており、意志の強さできっと撥ねかえされると信じていましたのに残念な急のご逝去でした。

追悼

織田萬里子 姉



2016年 9 月 14 日

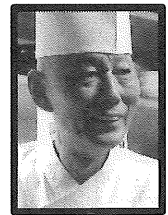
米倉美佐男牧師

誕生 1944（昭和19年） 1月8日
逝去 2016（平成28年） 9月14日
葬式 2016（平成28年） 9月16日

織田萬里子さんは9月14日（月）に72歳の生涯を閉じられました。8月28日（日）に教会に電話があり、伯母が洗礼を希望しているので授けて欲しいとの依頼でした。事情を聞かなければ即答はできないと伝え、ご自宅に伺ってご本人と話し、洗礼の意味を伝え、決心があることを確認したので洗礼を授けました。後日役員会の承諾を得て、正式に当教会の会員となりました。その後容態が急変し入院先の手稲家庭医療クリニックで亡くなりました。ご自宅にて葬りの式を行ない主の御許にお送りしました。若い頃に中頓別の教会学校に行かれていたことがあり、人生の中で困難な時、近くの教会に行っていたことも亡くなられた後で夫の祐香氏からお聞きしました。

追悼

高見周二 兄



2016年11月 2 日

米倉美佐男牧師

誕生 1947（昭和22年） 6月6日
逝去 2016（平成28年） 9月30日
前夜式 2016（平成28年） 10月3日
葬式 2016（平成28年） 10月4日

高見周二さんは9月30日（金）に69歳の生涯を閉じられました。

9月20日に夫人とご長女が教会を訪れ、夫が亡くなったなら教会で葬式をして欲しいとの依頼をされました。その時対応した役員から病床洗礼を勧められ、ご本人も希望されたので入院先の斗南病院に行き洗礼の意志を確認し、ご家族の同意を得て病室で洗礼を授けました。知っている讃美歌があるかお聞きしたところ「いつくしみ深き」のメロディーを口ずさまれたので一緒に讃美しました。その後30日に逝去され、教会にて葬式を致しました。夫人の祖父が岩内教会の牧師をされており、永眠者名簿にも関係者三名の高見姓の方々がおられます。

教会 Do !

家庭集会の意義 (1)

宣教委員会

「川畔の尖塔」編集部は、宣教委員会に「家庭集会の意義」についてとのテーマで、その目的や今後どういう集会にしていきたいかなども含めて執筆するようにと求める。これは非常に大きなテーマで短時間のうちに記述できるものではないと考える。そこで、本稿では札幌教会の百三十年近い歴史のなかで家庭集会というものを捉え直してみることにする。家庭集会のルーツは、札幌教会の創設と軌を一にする。

一八七七年四月、札幌農学校教頭W・S・クラークは、八か月の滞在の後、米國へ帰国の途についた。それに先立つ同年三月五日、クラークは、教授陣のホイラー、ペンハローとともに佐藤昌介、大島正健ら一期生十六名との間に「イエスを信ずる者の契約(誓約)」を交わした。一期生十六名全員が「誓約」の署名に応じる。クラーク離任後、太田稲造(新渡戸)、内村鑑三、宮部金吾ら二期生十五名も「誓

約」に署名した。

佐藤ら一期生がクラークと交わした「誓約」は、大山綱夫著『札幌農学校とキリスト教』(EDITEX刊、二〇一二年)によると、冒頭で贖罪信仰と三位一体の神への信仰を明言する信仰告白を記している。次いで十戒に触れ、信仰生活への指示で結びとなる。本稿では、次の二点に注目する。

第一、「我らはしかるべき機いたれば、試験を受けて受洗し、福音主義の教会に加



9月30日 下村笑子姉宅

わることを約束する」第二、「我ら、相助け、相い励まさんため、この誓約によつて『イエスを信ずる者』と称える一団を組織し、生活を共にする間、毎週一回以上相集いて聖書もしくは信仰の書籍雑誌を学び、共にはかり、祈禱会をなすことを、固く約束する」

未だ札幌にプロテスタント系の教会がない段階において、この「誓約」はキリスト者として教会に基盤をおく信仰生活の本質を如実に指し示すものに他ならない。「誓約」に託したクラークのキリスト教信仰の思いは、今日の札幌教会の礼拝堅持の姿勢や家庭集会のあり方に継承されているのではないだろうか。改めて今後の課題としたい。

編集

後記

札幌堂のクララントにろうそくが灯り、ツリーも設置されて私たちを招いています。

「ひとりのみどりごが、わたしたちのために生まれた。」(イザヤ九一五)

平和をもたらす救い主、唯一の希望の光であるイエス・キリストを常に仰ぎ、日々歩むことができますようにと祈りつつ…

メリー・クリスマス!! (鈴木泰子)